



## 自衛官候補生が母校の後輩に自衛隊をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月2日（水）、今春自衛官候補生として航空自衛隊に入隊した二人の母校訪問に協力した。今回母校を訪問したのは、ともに浜松東高等学校（浜松市）を卒業後、熊谷基地（埼玉県熊谷市）第2教育群に入隊し訓練に励んでいる、伊賀上航候補生と鈴木健介候補生。両名とも入隊一ヶ月が経ち、卒業後初めての母校訪問となった。

当日はあいにくの雨模様となったものの、二人は真新しい制服に身を包み、自衛官らしい凛々しい姿で母校の門をくぐった。在学中にお世話になった進路指導課の柿澤広之教諭と面会し、学生時の懐かしい思い出や自衛隊入隊後の生活、訓練の様子、今苦労していることや楽しいことなどの話題に花が咲いた。柿澤教諭は、短期間での教え子の成長に感じている様子であった。

その後、二人は在校時それぞれが在籍していたサッカー部及び柔道部を訪問。それぞれの顧問教諭や後輩部員たちと和やかに談笑し、入隊後の近況報告をすることにも、自衛隊の魅力ややりがいをPRし、後輩たちの質問に答えていた。

訪問を終えた二人は「今後も訓練に励み、早く一人前の自衛官になれるよう頑張りたい。また、夏季休暇にも母校を訪問して、後輩が私たちと同じ道を志願してくれるよう広報したい」と話した。

静岡地本は、引き続き「先輩の声」として入隊者の母校訪問を支援し、学校との懸け橋となって自衛官希望者の確保に努めていく。

## 世界最大級のホビーの祭典で16式機動戦闘車等を展示



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月12日（土）と13日（日）、ツインメッセ静岡（静岡市）で開催された「第57回静岡ホビーショー」において、広報活動を実施した。これは、国内の模型メーカーや模型ファンが一堂に会す、世界最大級のホビーのビッグイベント。2日間で全国から7万人以上の来場者が訪れた。

会場正面入り口には、陸上自衛隊富士学校戦車教導隊（駿東郡小山町）の16式機動戦闘車や、板妻駐屯地第34普通科連隊（御殿場市）の軽装甲機動車、高機動車、偵察用オートバイが並び、来場者の視線を集めた。特に新しく模型の発売が決定している16式機動戦闘車は注目度が高く、自走で会場を移動する際には、一目見ようとカメラを構えた多くの来場者が詰めかけた。

また、静岡地本は自衛官採用制度説明を行ったほか、災害派遣活動の紹介、迷彩服や制服の試着体験、子供向けぬりえコーナーなどを実施。板妻駐屯地キャラクター「ITAZUMAN（イタズマン）」と静岡地本マスコットキャラクター「しずぼん」が揃って登場すると、多くの子供たちに囲まれていた。

静岡地本は、今後も県内で開催される各種大型イベントで自衛隊をPRし、地域の皆様に自衛隊への理解を深めてもらうとともに、自衛官の人材確保のため広報活動に努めていく。

## 静岡県議会防衛議員連盟が沖縄地区を研修



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月9日（水）から11日（金）まで行われた、静岡県議会防衛議員連盟の沖縄地区研修に協力した。

これは、静岡県防衛議員連盟に所属する県議会議員が、南西、特に沖縄方面における国土防衛の現況を把握するとともに、在日米軍の現況と基地移設工事の状況を研修し、今後の県政の資を得ることを目的に行われたもので、陸上自衛隊那覇駐屯地、海上自衛隊那覇航空基地、勝連の沖縄基地隊、航空自衛隊那覇基地、恩納分屯基地及び米軍海兵隊キャンプ・ハンセンを訪れた。

参加した県議15人は、各訪問先部隊の司令官等を表敬。各部隊から概況説明を受けるとともに、航空機や艦艇などの装備品を視察した。

特に、海兵隊キャンプ・ハンセンでは副司令官から直接概要説明を受け、海兵隊の訓練環境やキャンプ・ハンセンが果たす役割、テロ対策、災害対策などの取組みについて理解を深めた。

また、普天間飛行場の辺野古移転工事については、対岸のカヌチャリゾートにおいて沖縄防衛局から、市街地における飛行場の問題点や移設工事に関わる自然破壊等の問題の説明を受けた。

静岡地本は、県議会議員等の有識者に自衛隊の活動について正しく理解を深めてもらうため、今後も研修を支援し、防衛基盤の強化に努めていく。